

平成28年度群馬県歯科口腔保健推進委員会 議事録

開催日時：平成29年3月28日（火）

午後7時00分～午後8時40分

開催場所：県庁29階 295会議室

○出席者（敬称略）

【委員】（50音順）

石原 隆	群馬県学校歯科医会 専務理事
入山 久美子	群馬県歯科衛生士会 専務理事
川島 崇	群馬県医師会 副会長
木下 樹	群馬県立小児医療センター 歯科・障害児歯科部長
齋田 一行	群馬労働局 健康安全課長
須田 孝也	群馬県国民健康保険団体連合会（群馬県保険者協議会事務局長）
中西 有美子	群馬県介護支援専門員協会 高崎・安中支部長
中林 亜衣	群馬県重症心身障害児（者）を守る会 理事
樋口 早苗	前橋市健康増進課 課長補佐
松本 ふさ江	群馬県栄養士会 副会長
森島 愛一郎	群馬県歯科医師会 専務理事
横尾 聡	群馬大学大学院医学系研究科 口腔顎顔面・形成外科学講座 教授

【幹事】（50音順）

岡部 清	健康福祉部障害政策課長
津久井 智	健康福祉部保健予防課長
武藤 幸夫	健康福祉部医務課長
吉田 誠	健康福祉部介護高齢課長

【事務局】

大竹 薫	保健予防課疾病対策・歯科保健係 係長
石田 圭吾	保健予防課疾病対策・歯科保健係 歯科医長
長谷川 万里	保健予防課疾病対策・歯科保健係 歯科衛生士（嘱託）

○欠席者：服部知己委員（高崎市保健所長）、山田和幸委員（群馬県保育協議会副会長）、高田勤幹事（県健康体育課長）、福田芳美幹事（県子育て・青少年課課長）

○議事

(1) 群馬県歯科口腔保健推進計画に基づく平成28年度の事業について

**障害児嚥下機能支援事業について**

(委員)

以前からニーズのあったことで、提案をいただいたので事業を実施している。STも毎回参加し、実務者の養成も行っている。小児科の主治医なども参加し、多職種での連携もしているが、他の施設で同様のやり方は困難かもしれない。太田で実施している事業(1歳児歯科相談)は、いわゆる定型発達の支援で、裾野を広げる意味で良い事業と思う。参加者が少ないのが残念。リーフレットがとても良いので、配布だけでなく、掲示などの方法も検討して欲しい。

(委員)

主治医の判断にも偏りがある。他の職種の口腔に関する意識が低いと感じている。

(委員)

当院は急性期病院であるため、実際には必要である療育病院としての側面が希薄な職員もいるのは事実。マンパワーや専門性の問題もあるが、少しずつ変えて行ければ。

(委員)

親としてはありがたい。経験として、早期からの介入は有用であると思っているが、(その事実を)知らない医療職も多いので、周知をお願いしたい。

(会長)

歯科医師会としても重要なことと認識しているため、研修会等開催し、研鑽に努めている。今後も尽力していきたい。

**1歳児歯科相談事業について**

(会長)

1歳児歯科(相談事業)のリーフレットがとてもよくできている。母子手帳に載せるのはどうか。この点について、栄養士会の松本委員はどうか。

(委員)

この資料の活用方法の検討を。もっと親御さんの目につくように周知の工夫を。

**在宅歯科医療連携室整備事業について**

(委員)

元来、訪問診療のニーズが高い地域だったというのが事業開始のきっかけ。もう7年目になる。本事業は、組織として動くための前段階としての意味合いがある。高齢者だけでなく、障害者に対してもケア介入などを実施している。小児医療センターや近隣の歯科医師会とも連携をしており、連携の幅が広がってきた印象。補助金では苦しくなってきたと

言うこともあるが、継続していきたい。

(会長)

医療・介護連携は大変重要。医師会が中心となって活動して欲しいが、いかがか。

(委員)

医師として、在宅の歯科について重要性の認知が広がりを見せている。嚥下の重要性も広がってきている。今後の進展に期待をしている。

(委員)

教育の中にも組み込まれてきているので、これからだという印象。

### **歯科口腔保健サポーター養成事業について**

(会長)

(口腔保健) サポーターについて。認知症サポーターとタッグを組めば数が増えると思うがどうか。

(事務局)

数も重要だが、それよりも目的が重要。数の論理に陥りたくない。質を重要視している。小難しい話ではなかなか普及・啓発につながらない。同じ目線で語れる語り部が必要。サポーターには、口コミの力で草の根的な活動を期待している。市町村とも連携をし、活動内容の検討をしていきたい。

### **障害児(者) 歯科疾患予防研修会について**

(委員)

重要な事業であるため、狙っていた参加者(特別支援学校教員など)が少なかったというのが残念。教育委員会と協力し、周知することが重要と感じる。もっと周知の工夫を。

(委員)

午前中開催の方が集まる印象。または、春休みなどの長期休暇の時期。

### **その他**

(会長)

ビッグデータの歯科分野における活用は重要と考えるが、いかがか。

(委員)

ビッグデータとは言っても、国保加入者のみなので、県民全員ではない。レセプトデータの活用についても、必要であれば協力するのでよろしくお願ひしたい。

(会長)

職域での歯科健診等事業についてはどうか。

(委員)

安全衛生法に基づくと、酸蝕症以外は健診の規定はないが、歯科のガイドラインの必要性を感じている。検討したい。

(3) 平成 29 年度事業について

(会長)

本日の委員会で、多くの意見が出た。こういった意見を施策に反映するために開催時期の検討をお願いしたい。

(事務局)

計画の進捗状況を確認するための委員会であるため、年度末開催にしている。H30 年度は次期計画のために複数回開催を予定している。頂戴した御意見については検討したい。

(委員)

フッ素洗口事業について伺いたい。

(事務局)

今年度から渋川北群馬歯科医師会に委託事業として幼稚園・保育園の数園で実施していただいている。次年度も継続し、効果の検証等をお願いしている。他地域への広がりであるが、フッ化物の局所応用については、地域によって好みがある。当センターとしてはあくまでも中立的な立場を取り、実施希望地域が出てくれば、同様のやり方で応援をするつもりである。

(委員)

むし歯は減っているとされているが、実際はどうか。二極化している印象。また、「引きこもり」の方の口腔の問題など、あらたな問題も出てきていることを知っていただきたい。

(委員)

嚥下関連事業について、病院からの退院後、きちんとした診断もなされないまま、ずっと経口摂取に至らないケースを散見する。ぜひ高齢期の事業も検討していただきたい。

(事務局)

前職の経験により、委員の指摘について実際に肌で感じているので、高齢期の嚥下事業については決して放っているわけではない。群市区単位で、そういった研修会等がさかん

に開催されているため、これからであると感じている。重要であることには違いがないので、（口腔保健支援）センターとしても検討したい。

（3）その他

- ・ 第8回関東障害者歯科臨床研究会について